

2026年度 早稲田大学大学院教育学研究科  
 博士後期課程 専門職業人入学試験問題 [ 小論文 ]  
 【教育基礎学専攻】

解答上の注意

1. 教育基礎学専攻の入学試験問題は、出願時に届け出た指導教員の欄に従い、下記の表の解答すべき問題を解答しなさい。

志願票に記入した研究指導名	志願票に記入した指導教員名	解答すべき問題・ページ
教育学研究指導	藤井 千春	設問 (P. 2)
教育学研究指導	三上 敦史	
教育学研究指導	坂倉 裕治	
教育学研究指導	根津 朋実	
教育学研究指導	菊地 栄治	
教育学研究指導	三尾 忠男	
教育学研究指導	鴨川 明子	
教育学研究指導	濱中 淳子	設問 1 (P. 3)
社会教育学研究指導	坂内 夏子	設問 2 (P. 3)
初等教育学研究指導	河村 茂雄	設問 1～2 (P. 4) の中 から 1 問解答
初等教育学研究指導	佐藤 隆之	
初等教育学研究指導	大泉 義一	

2. 解答用紙の所定欄に、研究指導名・指導教員名・受験番号・氏名を必ず記入すること。

3. 解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。

4. 問題用紙は「4枚」（本ページ含む）、解答用紙は「1枚」です。必ず枚数を確認すること。

以 上

2026年度 早稲田大学大学院 教育学研究科

博士後期課程 入学試験問題

専門職業人入試 科目名 小論文（教育基礎学専攻）

---

当問題は、以下の研究指導を志願する専門職業人を対象とする。

教育学研究指導（藤井千春）

教育学研究指導（三上敦史）

教育学研究指導（坂倉裕治）

教育学研究指導（根津朋実）

教育学研究指導（菊地栄治）

教育学研究指導（三尾忠男）

教育学研究指導（鴨川明子）

設問

教職大学院は2008（平成20）年度に開設されました。近年の成果と課題について、それぞれ具体例を挙げつつ述べなさい。

2026年度 早稲田大学大学院 教育学研究科

博士後期課程 入学試験問題

専門職業人入試 科目名 小論文（教育基礎学専攻）

---

当問題は、以下の研究指導を志願する専門職業人を対象とする。

- 教育学研究指導（濱中淳子）
- 社会教育学研究指導（坂内夏子）

教育学研究指導（濱中淳子）志願者は「設問1」を、社会教育学研究指導（坂内夏子）志願者は「設問2」を回答しなさい。答えは、別紙解答用紙に、選択した設問の番号を付して記入しなさい。

設問1. 実務経験や現場での問題意識を出発点として研究テーマを設定する場合、その実務的関心は、研究の問いを豊かにする可能性を持つ一方で、社会学的研究としての問いを「歪める」ものとして問題化されることがある。この「歪み」とは何を指すのか。また、それはいかなる条件のもとで生じるのか。あなたの考えを論じなさい。

設問2. 「社会教育は社会の地下水脈である」、「社会教育の目的は、直接的には人格形成、間接的には地域形成である」という二つの言葉は何を意味するのか、あなたの考えを論じなさい。

専門職業人入試 科目名 小論文（教育基礎学専攻）

---

次の【設問】は、以下の研究指導の志願者を対象とする。

初等教育学研究指導

(河村茂雄) (佐藤隆之) (大泉義一)

問題 次の2つの設問について、どれか一つを答えなさい。答えは別紙解答用紙に、選択した設問の番号を記した上で記入しなさい。

設問 1 平成 29 年 3 月公示の学習指導要領の公示以降、学校現場では「自立した学習者」を育成するために、授業のあり方の改善として、協働での問題解決型の学習活動が取り入れられ、学習者同士のピアフィードバックの活動が注目されている。ピアフィードバックについて説明し、学習者同士のピアフィードバックの活動を効果的にするための教師に求められる対応のあり方について、関わっている学校種の児童生徒・学生の発達段階や実態を踏まえて、具体的に説明しなさい。

設問 2 日本における美術教育の課題と展望について、中央教育審議会において提示された以下の考え\*)に対する自身の立場を明らかにし、依拠する理論を示したうえで、自身の研究領域・テーマと関連付けながら具体的に論じなさい。

「多くの各教科は、学問・科学・芸術などの文化遺産、いわゆる『親学問』を背景として成立している。すべての文化遺産は、人間がよりよく生きる、つまり well-being を目指して生み出されてきた知恵の体系である。学校における各教科は、そこからの選りすぐりの教授を通して、子供たちが人生で出会うさまざまな問題の解決に際し、それらを活用して有能 (competent) に振る舞えるようにすることで、well-being の実現に資することを目指してきた」

\*) 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 総則・評価特別部会 (第 2 回・令和 7 年 10 月 14 日) 配布資料「資料 1-3」より抜粋

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/101/siryo/mext\\_00026.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/101/siryo/mext_00026.html) (2026 年 1 月 7 日参照))



